

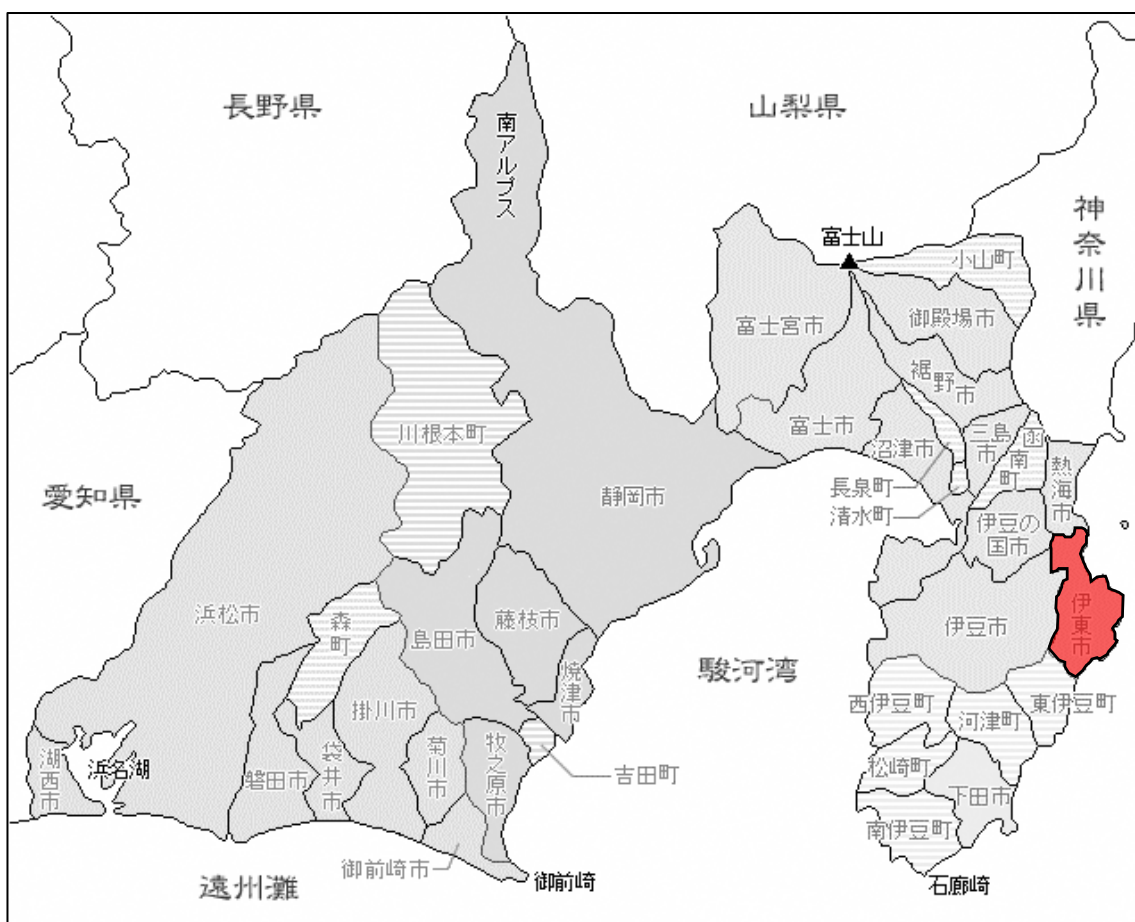
## 第2章 伊東市の概要

### 2-1 地勢・位置・面積

本市は、静岡県県の最東端、伊豆半島の東に位置し、市域の44.7%が「富士箱根伊豆国立公園区域」に指定される風光明媚な地域であり、東は相模灘に面し、北は熱海市、西は伊豆の国市、伊豆市、南は賀茂郡東伊豆町に接しています。市域は、東西10.45km、南北20.45kmと南北に長く、海岸線はおよそ40kmに及んでおり、面積は124.10km<sup>2</sup>で県下23市のうち13番目の広さです。

また、全国有数の湧出量を誇る温泉地である本市は、伊東八景等の地域資源に恵まれ、その雄大な自然は四季折々の色鮮やかな彩りを見せるなど、私たちの暮らしに潤いと安らぎを与えています。

本市の位置は図2-1に示すとおりです。



位置図（図2-1）

## 2-2 人口動態

伊東市の人口は、平成27年度末では、35,246世帯、71,033人、1世帯当たりの世帯人員は2.02人でしたが、令和元年度末では、35,390世帯、68,150人、世帯人員1.93人となり、世帯数はほぼ横ばいであるのに対し、1世帯当たりの世帯人員が減少する傾向を示しております。

年齢構成をみると年少人口（0～14歳）は、平成27年度国勢調査では9.99%、令和2年3月31日住基台帳では、8.48%と低下傾向となっています。

また、老年人口（65歳以上）は、平成27年度国勢調査では39.16%、令和2年3月31日住民基本台帳では、42.32%と全体の4割を超え、高齢化の動きが顕著となっています。

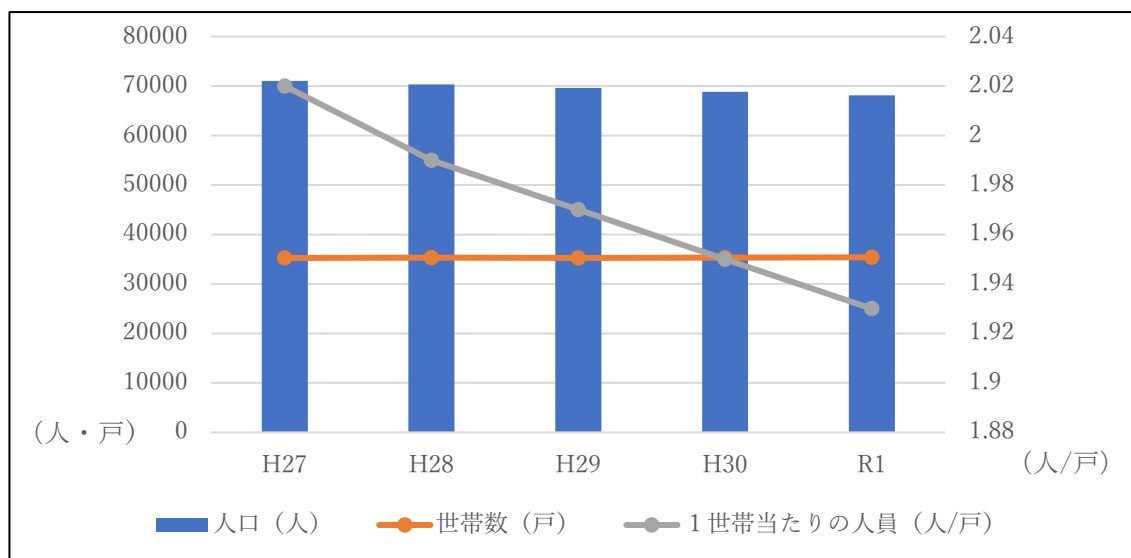
総務省統計局が発表している年齢3区分別人口及び割合（2018年）によると65歳以上の割合は28.1%となっており、本市の高齢化率が10ポイント以上高い結果となっています。

人口及び世帯数の推移並びに5歳階級別人口については、表2-1、図2-2及び表2-2に示すとおりです。

表2-1 人口及び世帯数の推移

年度	人口（人）	世帯数（戸）	1世帯当たりの人員（人/戸）
H27	71,033	35,246	2.02
H28	70,345	35,308	1.99
H29	69,597	35,285	1.97
H30	68,861	35,292	1.95
R1	68,150	35,390	1.93

（資料：住民基本台帳、人口、世帯数は各年度末（3/31時点））



人口及び世帯数の推移（図2-2）

表 2 - 2 5 歳階級別人口

年齢区分	令和元年度 (人)	平成 27 年度 (人)	増減 (人)	構成比 (%)	
	(R2. 3. 31 住基台帳)	国勢調査		令和元年度	平成 27 年度
0～4 歳	1, 467	1, 851	△384	2. 15	2. 71
5～9 歳	1, 978	2, 285	△307	2. 90	3. 34
10～14 歳	2, 339	2, 693	△354	3. 43	3. 94
15～19 歳	2, 636	2, 498	138	3. 87	3. 65
20～24 歳	2, 246	1, 789	457	3. 30	2. 62
25～29 歳	2, 002	2, 041	△39	2. 94	2. 99
30～34 歳	2, 268	2, 473	△205	3. 33	3. 62
35～39 歳	2, 634	3, 131	△497	3. 86	4. 58
40～44 歳	3, 494	4, 499	△1, 005	5. 13	6. 58
45～49 歳	4, 833	4, 446	387	7. 09	6. 51
50～54 歳	4, 713	3, 915	798	6. 92	5. 73
55～59 歳	4, 280	3, 974	306	6. 28	5. 81
60～64 歳	4, 416	5, 083	△667	6. 48	7. 44
65 歳以上	28, 844	26, 762	2, 082	42. 32	39. 16
不詳	0	905	△905	0. 00	1. 32
総数	68, 150	68, 345	△195	100. 00	100. 00

(平成 2 7 年国勢調査、令和 2 年住民基本台帳)

### 2 - 3 産業の動向

本市の産業別就業者数は、平成 2 7 年の国勢調査によると、第 1 次産業が 7 8 9 人 (2. 5 6 %)、第 2 次産業が 3, 9 6 6 人 (1 2. 8 6 %)、第 3 次産業が 2 4, 7 6 2 人 (8 0. 3 0 %) となっており、静岡県と比較すると建設業、製造業などの第 2 次産業の比率が低く、サービス業をはじめとした第 3 次産業の比率が高くなっています。

平成 1 7 年から平成 2 7 年にかけて全ての産業形態において就業者数が減少傾向にありますが、分類不能の産業とされるその他の産業が増加傾向にあります。

産業別事業所数においては、平成 2 4 年と平成 2 8 年を比較すると、多くの区分で減少が見られるものの、医療、福祉の区分については、事業者数、従業者数ともに増加傾向となっています。

産業別就業者数等の推移については表 2 - 3、図 2 - 3 及び図 2 - 4 に、産業別事業所数の推移は表 2 - 4 に示すとおりです。

表 2-3 産業別就業者数の推移

(単位：上段・人、下段・%)

区分	平成 17 年		平成 22 年		平成 27 年	
	伊東市	静岡県	伊東市	静岡県	伊東市	静岡県
就業者数	34,081 100.00	1,991,031 100.00	32,277 100.00	1,897,194 100.00	30,836 100.00	1,865,154 100.00
第 1 次産業	891 2.62	95,074 4.77	810 2.51	77,478 4.08	789 2.56	70,905 3.80
第 2 次産業	5,604 16.44	685,291 34.42	4,312 13.36	623,180 32.85	3,966 12.86	600,751 32.21
第 3 次産業	27,354 80.26	1,191,543 59.85	26,207 81.19	1,147,043 60.46	24,762 80.30	1,136,779 60.95
その他	232 0.68	19,123 0.96	948 2.94	49,493 2.61	1,319 4.28	56,719 3.04

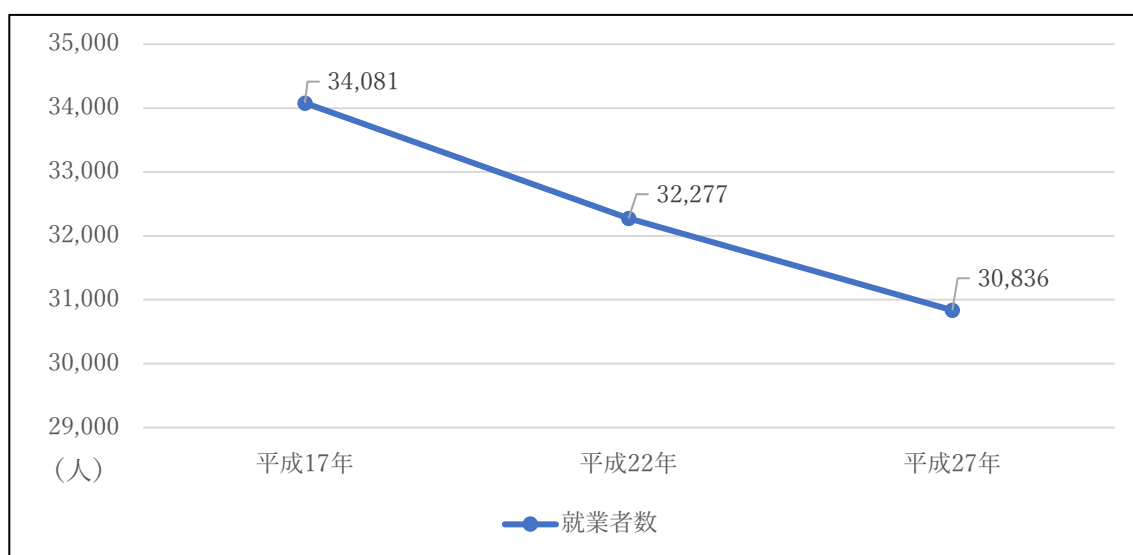
(平成 17 年、平成 22 年、平成 27 年国勢調査)

※ 第 1 次産業：農業、林業、漁業

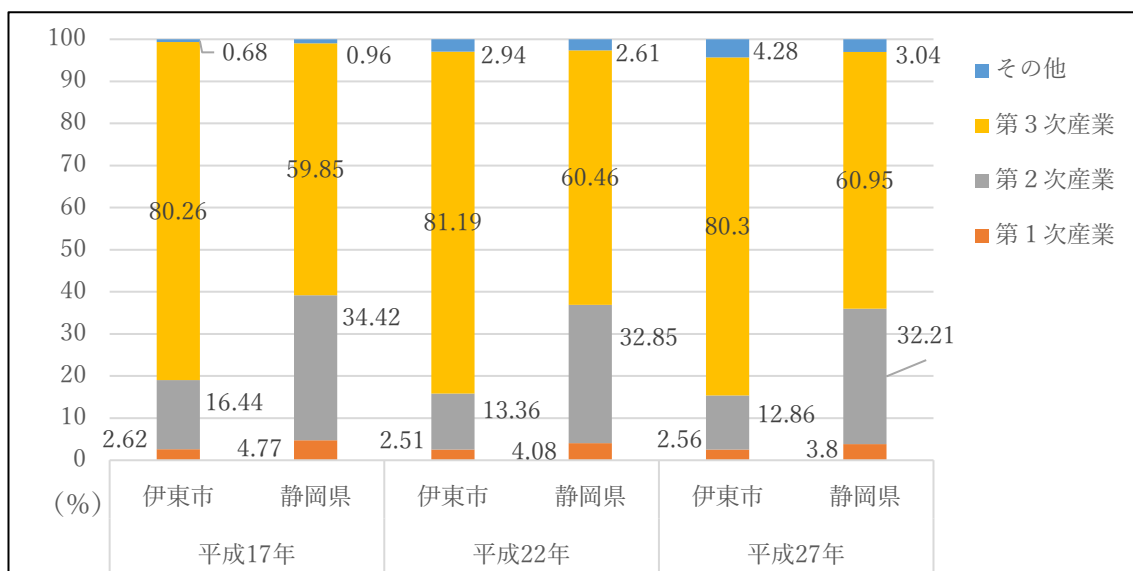
第 2 次産業：鉱業、採石業、砂利採取業、建設業、製造業

第 3 次産業：電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業、郵便業、卸売業、小売業、金融業、保険業、不動産業、物品賃貸業、学術研究、専門・技術サービス業、宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業、教育・学習支援業、医療・福祉、複合サービス事業、サービス業（他に分類されないもの）、公務（他に分類されるものを除く）

そ の 他：分類不能の産業



伊東市産業別就業者数の推移 (図 2-3)



産業別就業者割合の推移 (図 2-4)

表 2-4 産業別事業所数の推移

区分	平成24年		平成28年	
	事業所数	従業者数 (人)	事業所数	従業者数 (人)
産業大分類				
総数	4,471	28,909	4,295	27,919
農業、林業	7	33	13	71
漁業	1	15	1	10
鉱業・採石業・砂利採取業	—	—	—	—
建設業	474	2,689	423	1,922
製造業	175	1,132	154	898
電気・ガス・熱供給・水道業	6	187	8	233
情報通信業	22	102	23	168
運輸業、郵便業	48	1,094	52	1,314
卸売業、小売業	1,096	6,127	1,028	5,859
金融業、保険業	57	550	48	455
不動産業、物品賃貸業	395	1,123	352	1,089
学術研究、専門・技術サービス業	110	407	111	351
宿泊業、飲食サービス業	1,074	7,099	1,018	6,894
生活関連サービス業、娯楽業	409	2,077	399	1,714
教育、学習支援業	128	409	132	507
医療、福祉	236	3,255	286	4,296
複合サービス事業	23	248	27	429
サービス業 (他に分類されるものを除く)	209	2,328	220	1,709
公務 (他に分類されるものを除く)	—	—	—	—

(平成24年、平成28年経済センサス活動調査)

## 2-4 観光の動向

本市は、全国有数の温泉湧出量を誇る温泉観光地であるとともに、大室山や城ヶ崎海岸、一碧湖等、豊かな自然に囲まれ、花の名所も多く存在しています。また、南部地区には、おしゃれなペンション、カフェや美術館等の文化施設も集積しています。目指すべき市の将来像「出会い つながり みんなで育む 自然豊かなやさしいまち いとう」に照らして、これらの資源を俯瞰してみると、ゆったりとした時間の中で癒しの空間を提供していく観光素材が多く、本市の強みを生かした観光振興の方向性としては、首都圏等になり豊かな自然の中で、「日々の疲れやストレスを心身ともに癒せるまち」を目指すことが妥当であると考えられます。本市は、これまでも健康や癒しをテーマにした健康保養地づくり事業を推進してきた実績があり、この方向を具現化する上で、その蓄積を生かしていくことが可能です。

そこで、ゆとり、快適、癒し、ストレス発散、休養、息抜き、リフレッシュ、くつろぎ、やすらぎ等、本市を訪れる観光客が得られる便益、体験価値を「リラックス」という言葉に集約し、「リラックスできるまち・いとう」を観光地としてのブランド価値形成のビジョンとして掲げ、市民の理解、参加を促進するとともに、観光・宿泊関連団体や事業者等の関係者がその理念を共有することで、一体となって観光まちづくりを推進することを目指しています。

観光客入込数の推移は、表2-5及び図2-5に示すとおりです。

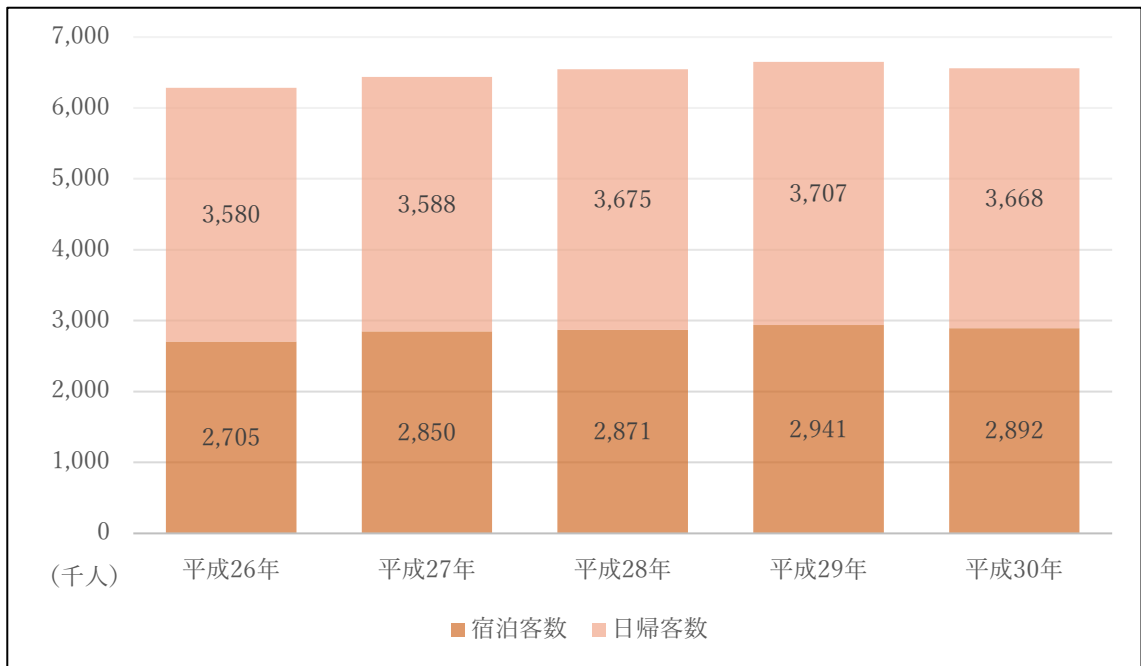
(参考：第3次伊東市観光基本計画リラックスできるまち・いとうより)

表2-5 観光客入込数の推移

(単位：千人)

年	宿泊客数	日帰客数	総数
平成26年	2,705	3,580	6,285
平成27年	2,850	3,588	6,438
平成28年	2,871	3,675	6,546
平成29年	2,941	3,707	6,648
平成30年	2,892	3,668	6,560

(伊東市統計書)



観光客入込数の推移（図 2 - 5）

## 2 - 5 土地利用

本市の土地地目別面積（有租地）は、畑、山林、原野が減少傾向であり、宅地が増加傾向を示していますが、全体としては、やや減少傾向となっております。

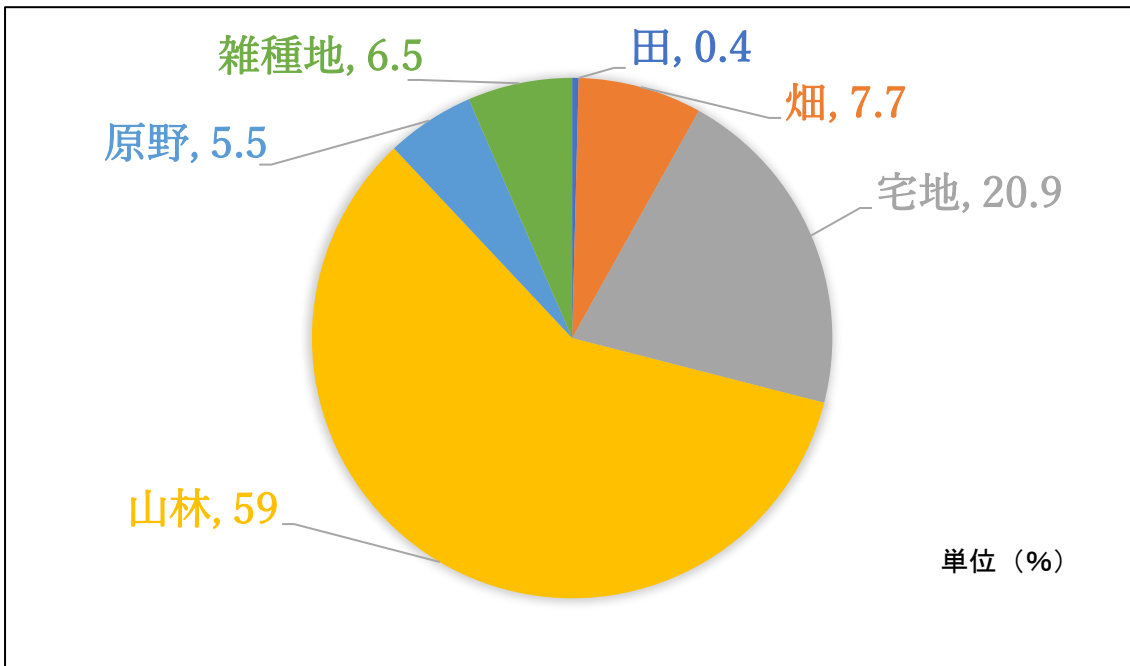
土地地目別面積の推移は表 2 - 6 に、平成 3 0 年の土地地目別面積割合は、図 2 - 6 に示すとおりです。

表 2 - 6 土地地目別面積の推移（有租地）

（単位：千㎡）

年	田	畑	宅地	山林	原野	雑種地	合計
平成 2 6 年	353	7,688	20,348	58,100	5,471	6,378	98,338
平成 2 7 年	352	7,672	20,408	58,052	5,435	6,281	98,200
平成 2 8 年	352	7,635	20,422	58,027	5,433	6,315	98,184
平成 2 9 年	352	7,596	20,443	57,918	5,403	6,391	98,103
平成 3 0 年	352	7,563	20,493	57,891	5,398	6,390	98,087

（伊東市統計書）



平成30年 土地地目別面積割合 (図2-6)